

## 社会保障費用統計

梅雨明けした日本列島は南からの強い熱波に見舞われ、お盆を過ぎても各地で35度を超す厳しい暑さが続いています。この暑さの中、今年も阪神甲子園球場では、高校球児達の熱い戦いが繰り広げられています。台風10号の影響で1日順延となりましたが、ベスト4が出揃いました。20日の準決勝は、履正社（大阪）対明石商業（兵庫）と中京学院大中京（岐阜）対星稜（石川）と、いずれも近隣県同士の対戦となりました。どの高校が頂点に立っても初優勝、各校の白熱した戦いに期待したいと思います。

さて、国立社会保障・人口問題研究所は今日2日、2017年度の「社会保障費用統計」をとりまとめ、公表しました。

「社会費用統計」は、年金、医療保険、介護保険、雇用保険、生活保護等の社会保障制度に関する1年間の支出を、ILO（国際労働機関）基準による「社会保障給付費」と、OECD（経済協力開発機構）基準による「社会支出」との二通りで集計したものです。社会支出は、社会保障給付費に比べ、施設整備費など直接個人に渡らない支出も含めたものとなっています。

社会保障給付費の総額は、前年度に比べ1兆8,353億円増の120兆2,443億円。社会支出の総額は、前年度に比べ1兆9,722億円増の124兆1,837億円となり、いずれも前年度比1.6%の増加となっています。これを国民1人当たりで換算すると、社会保障給付費は94万9,000円、社会支出は98万100円、となっています。

社会保障給付費を部門別に見ると、「医療」が39兆4,195億円で32.8%、「年金」が54兆8,349億円で45.6%、「福祉その他」が25兆9,898億円で21.6%となっています。「福祉その他」のうち「介護対策」は、10兆1,016億円で8.4%となっています。他方、社会保障給付に対応する社会保険料や公費負担などの「社会保障財源」は、総額141兆5,693億円で、前年度に比べて5兆441億円の増加となっています。

また、7月30日には2018年の簡易生命表が公表されました。これによると、平均寿命は男性が81.25年、女性が87.32年と、いずれも過去最長となりました。

2025年には団塊世代の全てが75才を迎え、医療・介護・年金等、高齢者に対する社会保障の充実は、なお一層求められるものと思います。安定した社会保障制度を維持していくとともに、健康寿命を延伸し、誰もが元気で長生きできる社会を築いていかなければなりません。